

皇高同窓会報

題字 皇學館高等学校長 莊司壽一郎



躍進

第九代会長

西村 幸彦
(第10期生)

日増しに暑さが厳しくなり、そろそろ蟬たちも歌い出してまいりました。会員各位におかれましては、益々お元気で活躍のことと存じます。さて、昨日の空模様とはうって変わって、今朝は爽やかな風を肌で感じています。

サッカー ワールドカップ2002“ベスト8”を賭けて、激しい雨の中、“蒼きサムライ達”の世界への挑戦は終わりました。93年“ドーハの悲劇”から早や9年。彼らの勇姿に、夢を・勇気をもらい、世代を超えて感動をしました。不景気、暗いニュースばかりの我が国を、活気づける健闘ぶりです。ここに至るまでの、指導者、選手達の苦悩、そして、ためまぬ努力と経験の積み重ねの日々を思うとき、心がスッと透明になり、次の瞬間、熱いものがグッと込み上げてきます。

我が母校「皇學館」も、創立40周年を来年に控え、前回会報でお知らせ致しましたように、管理棟、1号校舎竣工、それらに続き3号校舎の増改築も始まり、より充実し、勉学に又、各々

ラブ活動におきましても益々すばらしい躍進を続けております。

また、県内の高等学校では、少子化と言う波で、年々生徒数の減少が懸念されている中、14年度入学者数は予定を上回る1クラス増(県内私学13校中、予定者確保は皇學館高校・高田高校のみ)と、誠に喜ばしいお知らせもごさいます。

昨今の社会情勢の中、この事実は、母校関係各位のご尽力、卒業生の皆様が長き年月を経て培っていただいた賜物と深く感謝を申し上げます。卒業生として母校の発展成長はこのうえない喜びであり、地域で認められ、成長させていいただいていることをバネに、是非とも躍進を“維持”させて頂き、これからも、益々皆様方の深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、私達卒業生は、“爽やかな風”が吹く母校であり続けるよう、「皇學館」の“永遠のサポーター”で在りたい。

学力の充実を目指して



皇學館高等学校長

莊司壽一郎

新緑が喧せ返るようなこの時期は、学校もまた新学期独自の活気に満ちた季節です。今年度も中・高等学校共に皇學館教育に期待する元気に生徒諸君が入学してくれました。特に中学校の新入生は、今年から高校と同じようにブレザータイプの制服に変わったことから殊更に初々しく凛冽として見えます。このまま伸び伸びと育つてくれればと思います。

高校については、今年度の入学者が定員を一学級分超過したことから全学年が十学級となりました。そうなるとうちH教室だけで校舎が埋まってしまう、選択講座を実施することが物理的に不可能となり、急遽三教室を増築してもらった事になりました。新校舎を建ててもらったばかりだというのに、行儀の悪い話ではあるのですが、生徒に対する授業充実のためという観点から法人に格段の配慮を頂き、後援会からも全面的なバックアップを得て、現在、施工業者の決定に至った段階です。着工は七

月になろうかと思いますが、何とか二学期中には完成という状態にして頂ければと思っております。場所は、三号校舎北東側に連結する形で三階建て三教室という仕様になります。完成後は教室をフル稼働させて生徒の学習環境・内容を充実させると共に、今後とも十学級分の生徒確保が出来るよう全力をあげて努力したいと思っております。

今年度から全国的に学校にも完全週五日制が導入されました。しかし本校では、土曜特別学習講座と名付けて主要教科六〇分三限の特編講座を開講します。基本的には生徒の自主選択ですが、五月一八日の第一回の講座は平常通り、新指導要領の実施と共に生徒の学力低下が不安視されるなか、より多様で密度の高い学習能力の向上を目指し今後も継続していききたいと思います。

同窓会からの一層のご援助をお願いします。

○編集発行 皇學館高等学校
同窓会(本部)
〒516-8577
三重県伊勢市楠部町138番地
TEL (0596) 22-0205(代)
FAX (0596) 24-3141
○編集責任者 北村 裕彦
○制作 株式会社アイブレン

在校生(5月1日現在)

1年生	399名
2年生	379名
3年生	403名
計	1,181名

同窓生
12,758名

同窓会ホームページ開設準備中

昨今のパソコン、携帯電話等の普及に伴い、この度皇高同窓会のホームページを開設する運びとなりました。

本年秋頃の開設を目指して、現在鋭意制作中です。

今後は、会報だけでなく、ホームページを通じて同窓会会員との連絡やコミュニケーションをより一層深めていきたいと考えております。

ホームページのURLは、<http://www.kogakkan.org/>です。

開設後のホームページへのご来訪、ご参加を心よりお待ちしております。

国際交流振興会事業

台湾短期研修

平成14年3月26日～31日

三月二十六日から三十一日まで、台湾短期研修を実施した。この事業は、海外研修を体験することにより、相互の文化や生活を理解して親善を深めると共に、世界に通用する国際的感覚を身につけることを目的として、本校の国際理解教育の一環として企画されたものである。

今回の訪問先は、高雄市の私立高鳳高級工業家事職業学校で、汽車科などの職業科と総合科等からなる学校である。

参加生徒は二年生（現三年生）七名（男子四名、女子三名）であった。十二月から、校内で台湾についての研修を積み、また中国語での会話を勉強して台湾短期研修に臨んだ。

関西国際空港から台北経由で高雄に到着、翌朝迎えのバスで高鳳校に到着するや、予想外の歓迎を受けた。洪水法先生、徐永欽校長先生、全校生徒の出迎へと、高鳳校生徒の演じる山地舞の歓迎を受けた。山地舞は、山人の伝統的な舞踊である。その後場所を室内に移し、式典が行なわれた。

記念品の交換、両校の代表者の挨拶があった。学校創設者の洪先生は七十五歳で、過去の日本統治下で一生懸命勉強したことが現在の基礎になったことを話され、日本人の礼儀正しさ、正直、責任感、真剣な努力を学びとると共にこれから両校の友好親善が深まることを念願すると挨拶された。生徒の代表として李怡静さんと本校からは木下早由希さんが挨拶した。木下さんは何度も練習した中国語で挨拶に

臨んだ。

その後、餐飲料生徒による花式調酒表演の見学や、午後には市内見学の後、ホームステイに入った。今回の研修の中心となるものであるが、最初のことでもあるので多少の不安を抱いて生徒を見送った。

ホームステイで得られたものは、風呂やトイレなどの生活の違いや、朝食も家族全員が揃って食べる習慣が無いなど、文化の違いを肌身に触れたことだ。

四日目は台湾最南端の地、墾丁の熱帯の自然を楽しんだ。五日目は高雄にもどり、蓮池潭、澄清湖、寿山公園の観光と土産物の買物で過ごした。

最後の夜にはホストスチューデントをホテルに招き、歓談した。言葉の壁はあったが、片言の中国語、日本語、英語に筆談を交えて意思の疎通を図っていた姿は、今回の研修の目的を見事に果たしてくれたものと思われた。さらに翌朝六時には見送りにまで来て下さって、高雄国際空港で最後の別れを惜しんだ。

三十一日に無事伊勢に帰ったが、出発時と比べると自信に満ちた顔つきは台湾の文化に触れて、人間的に大きくなったように思えた。

最後に、国際交流振興会にご賛同、ご協力下さいました皆様方に、厚く御礼申し上げます。



参加者から――

「音楽は国境を越えて」

徳田 宜礼

音楽部にとって初となる海外演奏にOBとして参加させていただきました。私たちの演奏がどこまで受け入れてもらえるのか、それにほとんど言葉が通じない相手とコミュニケーションはとれるだろうかなど、いろいろな不安と期待が入り混じりつつ迎えた三月二十六日、いよいよ台湾へ。「飛行機怖いです」という声も聞こえる中、約四時間のフライトで無事高雄に到着しましたが、空港から出た瞬間に「暑い」の一言。雨も降っていたせいにか、かなり湿度が多かったです。そして翌日高雄高級中学校で演奏です。バスで到着した私たちを全校生徒総出で大歓迎していただき、中には花をいただいた人もいました。演奏会場は約五百人ほど入るようですが、立見も出るほどの超満員。そこでまず私たちの演奏です。前田先生の指揮のもと六曲を演奏しました。観客の声援も手伝ってか私たちのテンションも徐々に上がってきても曲のテンポも普段より速くなってしまい、パートによっては結構

構った人もいたようです。客席もステージ上も非常に盛り上がりとても楽しく演奏することが出来ました。そのあと高雄高級中学校の音楽部と音楽科それぞれの演奏を聴かせていただきました。「夜空ノムコウ」など日本の歌謡曲も演奏してくれた心遣いが嬉しかったです。音楽科は台湾に二校しかないらしく、アンサンブルながら素晴らしい演奏でした。演奏終了後、高雄高級中学校のみならずとの交流の場を設けていただき、中には日本語が話せる生徒もいてそれぞれに有意義で貴重な体験をすることが出来ました。翌日台南の東方専科學校へ訪問し、観光などしつつ五日六日の演奏旅行は幕を閉じました。今回の旅行で現役生たちの精神的な成長を感じられましたし、音楽は世界の共通語であることを強く認識することが出来ました。またいつの日か演奏旅行が行われる際には是非とも参加させていただきたいと思

国際交流振興会
ご協賛のお願い

昨年発足した国際交流振興会は、同窓生、保護者、後援会の皆様から五百万円余りの協賛金を寄附いただきました。

お陰様で、三月には台湾の高校への短期研修と音楽部の台湾演奏旅行を実施することができました。本年7月には、オーストラリアへ2週間の語学研修を実施する予定で、現在準備をすすめております。

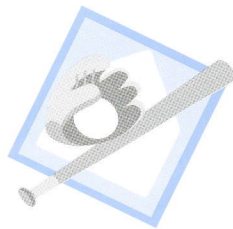
これら国際交流事業を継続し、一人でも多くの生徒に貴重な体験の機会を与えたいと考えております。

同窓生の皆様には、何かと出費ご多端のこととは存じますが、趣旨ご理解の上、ご協賛くださいますようお願い申し上げます。

協賛金は、一口5千円からとなっております。下記口座に直接お振り込みくださいますようお願い申し上げます。

百五銀行伊勢支店 普通666832
学校法人皇學館 理事長 上杉千郷

野球部創立!



— 今春、同好会から部に昇格し、県高野連に加盟 —

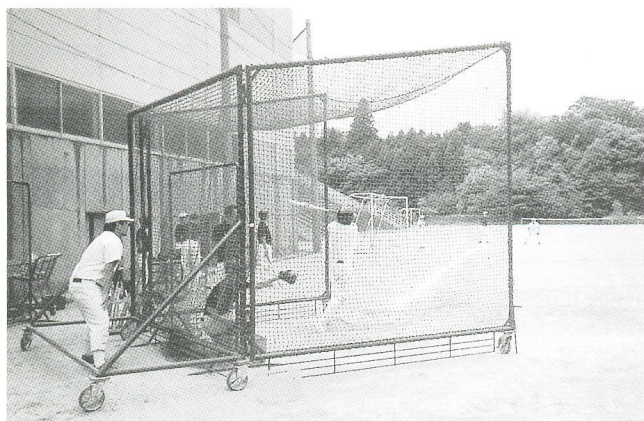
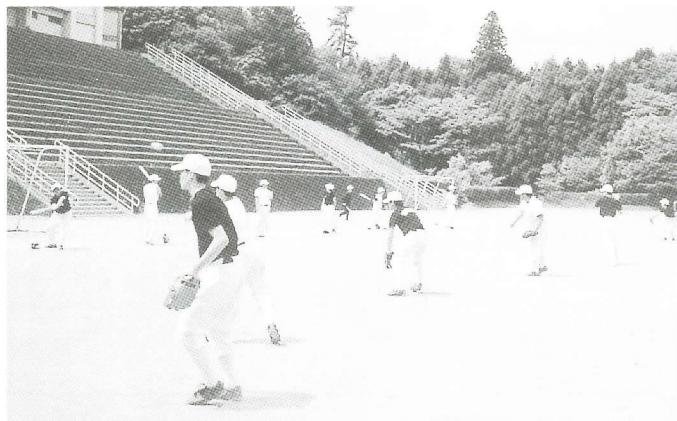


昨年7月末に待望久しい野球同好会が設立されました。毎年のように設立を望む生徒の声がありながら、経費や練習場所などの問題で見送られてきましたが、クラブ活動に深い理解があり、また周辺中学校へのPR効果が高いことに着目された莊司校長の英断で、ようやく産ぶ声をあげることとなりました。監督には元報徳学園野球部コーチで甲子園での優勝経験のある西井栄治教諭(3期生)が、部長には内田康郎教諭が就任され、保護者会や後援会が資金面で援助して、ボールやバット・ネットなどの器具を購入し、体育館倉庫を部室に改造するなど、

学校をあげての応援体制がつけられつつあります。同窓会事務局としても、たびたび設立の要望をしてきた経緯から、今後の野球部の活動・躍進に物心両面から、できる限りの支援を続けるつもりです。

スタート当初の昨夏は、バットとボールがようやくそろった状態で、だれがどのポジションを守るかも決められない状態で、グラウンドの石を拾い、雑草を抜きとり、整地をしながらの練習でした。秋ごろから少しずつチームとしての基礎が固まりはじめ、冬場の厳しいトレーニングを積んで、ようやく野球のできる状態に育ってきています。この頃の状態は、本年1月26日付の毎日新聞(朝刊)で報道されています。

3月末の春季大会(地区予選)に初出場し、結果は3戦3敗ながら、県内69番目の野球部として県高野連にも加盟が認められました。4月には同好会から部に



昇格し、当初12名であった部員も28名となり、チーム内での競争意識も芽生えて本格的なクラブ活動が可能となりました。現在は7月の選手権大会に向けて、毎日厳しい練習が続けられています。

この間に、同窓会は学校側の要請を受け、試合用ユニフォーム一式を贈りました。7月の選手権大会には、この同窓会寄贈の真新しいユニフォームで参加することとなっています。グレーを基調に胸に「皇學館」のロゴを配し、腕に校章を入れた斬新で、スマートなユニフォームです。選手にも好評です。

3年生の石川慎吾主将は「勝っても負けても、泣けるゲームをしてみせる」。西井監督は、「公式戦でまず1勝して、ご声援に応えたい。チームワークの良いチームなので、選手の活躍に期待したい」と意気込んでいます。

母校のチームとしてどうぞ今後ともご声援をお願いいたします。

皇學館高等学校同窓会

役員

会長 10期 西村 幸彦

副会長 12期 林 祐明
13期 山本 徹人

事務局 13期 浅野 敦

事務局担当役員

12期 上田 和久
14期 北村 裕彦
14期 木本 博文
17期 西村 昭徳
18期 齋田 聖生
19期 森 大亮
27期 大門 理恵
27期 濱口 真由美
29期 丸山 敦子

会計監査 1期 坂田 巧
2期 藤原 宣光

学内担当 3期 西井 栄治
4期 中村 貴史
13期 岩崎 眞里

学内事務 30期 勢力 章子

<http://members.tripod.co.jp/cjchamp/13th/13thmain.htm>